

国 語 問 題

注 意 事 項

1. 試験開始の指示があるまで問題冊子を開いてはいけません。
2. この問題冊子は 21 ページです。落丁、乱丁、印刷不鮮明などの箇所がある場合には申し出てください。
3. 問題冊子および国語解答用紙（マークシート）と国語記述解答用紙が配布された後、各解答用紙の所定欄に座席番号・氏名・フリガナを正確に記入し、国語解答用紙（マークシート）の座席番号欄には座席番号を正しくマークしてください。
4. 解答は必ず国語解答用紙（マークシート）の指定された箇所に正しくマークし、記述式問題の解答は国語記述解答用紙に記述してください。マーク箇所を誤った解答は無効です。

5. マーク解答欄記入上の注意

- (1) 解答は指定された解答欄にマークし、その他の部分には何も書かないでください。例えば、

20

 と表示のある問いに対して、③と解答する場合には、次の例のように**解答番号 20**の**解答欄**の③にマークしてください。

例

解答 番号	解					答					欄				
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
20	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐

- (2) 複数の解答がある場合も、同じ解答欄にマークしてください。ただし、指示された解答数より多くマークした場合は、その解答はすべて不正解となります。
- (3) 解答用紙へのマークはすべて H B のシャープペンシルまたは鉛筆で行い、訂正する場合にはプラスチック製消しゴムで丁寧によく消し、消しきずはきれいに取除いてください。
- (4) 解答用紙は絶対に汚さないでください。また折り曲げたり破ったりしないでください。
- (5) 解答欄の所定欄以外の余白部分は、何も記入しないでください。記入したり、汚したりすると解答用紙読み取り時の誤読の原因となり、採点できない場合があります。
6. 国語記述解答用紙については、注意事項をよく読み、指定された設問について解答しなさい。
7. 試験時間中に退場することはできません。
8. 問題冊子は必ず持ち帰ってください。
9. 解答用紙は持ち帰ってはいけません。

I 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

現在の人間は他人と協力することでより生き残りやすく増えやすくなっています。この他者と協力をする効果は圧倒的です。地球上の人口が2022年現在約80億人に達し、このまま進めば110億人くらいに落ち着くと予想されています。

同じくらいのサイズの類人猿であるチンパンジーは17〜30万頭、ニシローランドゴリラは32万頭しかいないことを考えると、これはこのサイズの大規模生物としては破格の数に達しています。生息域も広がり、地球上のすべての場所を踏破し、宇宙にまで進出するようになりました。それもすべて、⁽¹⁾多くの人間が協力したからこそなした成果です。人間が衣食住をすべて個人で賄っていたら、決して宇宙には到達できなかったことでしょう。

ただ、この他者との協力にはヘイガイ^(ア)もあります。協力関係が増えることに対してきわめて有効であったために、人間はもはや他者の協力なしでは生きていけなくなってしまうています。もし、一人で無人島に流れ着いたとしたら生きていけるでしょうか。衣食住をすべて自分で賄わなければなりません。毎日、水と食べ物を心配しないとならず、おなか一杯になることはなく、トイレもなく、寝るときは虫に悩まされ、病気や怪我^{けが}をしても誰も助けてくれないそんな生活です。頑張ったならばしくは生きていけるかもしれませんが、そんな生活だったら死んだ方がましな気がします。

私たちは自分を含む多くの人との共同作業によって、効率的で快適な社会に住むことができます。ほとんどの人はこの社会を捨てて自給自足の生活に戻ることは望んでいないでしょう。そもそも、自給自足の生活にもどったら今の人口はもう維持できません。たとえば、1万年前までの人類は狩猟採集生活を送っていましたが、この生活スタイルでは地球上でせいぜい500万人程度しか維持できなかったようです。もし、今の社会を捨てて狩猟採集社会に戻るとすると、現在生きている約80億人のほとんどはすぐに死んでしまうことになります。多くの人にとってこれは耐えられることではないでしょう。

A、私たちが現代の高度な協力関係で結ばれた社会を維持することは、もはや義務になっています。これは協力することで増えてきた人間という生物にとっては当然の結果です。私たちは協力しないと、今の人口も快適な生活も維持することはできません。協力することが増えることに貢献すればするほど、協力を善いものとみなし、他人^{ひと}にもそれを強いる性質が子孫の中で強化されていきます。そして私たちはますます協力す

るような性質と倫理観を持つようになってしまっています。⁽²⁾人間が協力関係を増やすことによって大成功したことが、現代人の抱える他者との関わり⁽¹⁾の悩みを生み出しています。

現代に生きる人間はすべて他者と協力することで増えてきた生物です。協力しやすい性質を持っているのは間違いないですが、同時に協力しなければならぬというキハン⁽¹⁾も（先天的か後天的かによらず）受け継いでいます。したがって私たちは、身近にいる人と協力的な関係を築けていない、つまり仲が悪い、あるいは嫌いで協力したくない状況にあると居心地が悪く、悩んでしまうことになります。

しかし、よく考えてみるとこのような悩みは理屈に合わないところがあります。たしかに現代社会は人と人との協力関係によって成り立っていますが、だからと言って、必ずしもすべての人と仲良くなる必要はありません。現代社会の協力関係はセンレン⁽⁷⁾されており、個人の好き嫌いにはあまり影響を受けなくなっています。現代社会のまっとうな企業であれば、そのような個人的な好き嫌いで仕事が滞ることは避けるようなしくみになっていると思います。つまり、仲が悪いからといって協力関係が崩れているわけではないのです。

学校での同級生との関係性についてはなおさら関係ありません。学校でみんなと仲良くすることを教えられますが、それは社会を維持するための協力性を身に着けるためです。大人になって職業についたときに、仕事をエンカツ⁽⁵⁾に行なうために必要な程度に協力的であれば十分なはずで、すべての人間と仲良くなる必要はありません。**B**、私たちは不必要なまでに他者との関わりを気にしてしまいます。嫌いな人間、仲の悪い人間が近くにいることにストレスを感じてしまいます。⁽³⁾ここには、私たちの考え方と現代社会のしくみとのズレがあるように思います。

私たち人類が今のように農耕を行ない定住し始めたのは1万年ほど前だと言われています。それまでの100万年ほどは、少人数のグループで移動しながら狩りや採集で食べ物を集める狩猟採集生活を送っていたと考えられています。1万年という時間は、長いようですが生物の体のつくりを変えるには短すぎます。したがって、私たちの身体や脳は未だ⁽⁴⁾約100万年続いた狩猟採集社会に適応していると言われています。これが「私たちのからだには狩猟採集社会の⁽⁴⁾ところが詰まっている」と言われる理由です。

狩猟採集生活がどんなものだったかは、近年まで狩猟採集生活をおくっていたナミビアのクン族などの研究からおおまかな様子がわかっています。狩りや採集や調理、育児を集団で協力して行なっていたと想像されています。

多くの狩猟採集社会で共通しているのは「平等性」です。群れのメンバーは公平に扱われます。獲物を多くしとめたからといって、分け前が多くなるわけではありません。この平等性は群れのメンバーが安定して生き残るために合理的なしくみです。もし、獲物をしとめた人だけが食べ物

にありつけるようにしたらどうなるでしょうか。元氣なときにはそれでいいでしょうが、ひとたび怪我や病気をしてしまえば、その時点で食べ物が手に入らなくなつて餓えてしまいます。怪我や病気はどんなに気を付けていても避けがたいことです。そんな社会ではとても安定的に子孫を残していくことはできないでしょう。狩猟採集社会の平等性は、集団のメンバーが安定して子孫を残す（つまり増えていく）ための重要なしくみです。

この平等性を維持するために、クン族は並々ならぬ努力をしています。なによりも大事なことは協力的で偉ぶらないことです。クン族の逸話でこんな話があります。もし狩りに行つて大きな獲物をしとめることができた場合、その人は決して大喜びで帰つてきたり、自ら手柄を宣伝するやうなことはしません。普段と同じように帰つてきて、仲間のところに加わります。自分からは言い出さず、仲間が狩りの成果を聞いてくれるまで待ちます。聞いてくれたとしても、「なんにも見つけられなかったよ……まあほんのちっぽけなものならあつたかな」と、できるだけ大したことではないふうを装いながら、自慢にならないように気を付けて成果を報告するそうです。

私たちの目から見ると、そこまで気を使わなくても……と思わなくはないですが、そうしてしまふ気持ちはわかるのではないのでしょうか。もし、偉ぶつてしまつて嫌われてしまつたら、次に自分が獲物を捕れなかったときには助けてもらえないかもしれません。そうなれば、自分も自分の家族もみんな餓えてしまいます。狩猟採集生活者にとって、仲間から嫌われないこと、仲間外れにされないことは生きていくうえで何よりも大切なことだったのでしょう。

人間はこのような社会で100万年を過ごしてきました。したがって、人間の考え方も倫理観も未だこの狩猟採集生活に適応していると考えられています。みんなに協力的で、偉ぶらず、自慢しないのが尊ばれます。これは現代社会でも同じではないでしょうか。たとえば本当に偉かったり自慢するだけの成果を残していたとしても、それを偉そうに自慢をする人は嫌われ、偉ぶらず謙遜している人の方が人格者として評価されます。それも私たちが狩猟採集生活の心を未だに有していることを示しているのかもしれませんが。

私たちが協調性を重んじて、隣人と仲が良くないと悩むのはこの考え方の名残だとみなすことができます。いわば時代遅れの本能が残っているのです。たしかに狩猟採集社会では仲間外れにされることは死活問題です。しかし、今やそうではありません。協力性は社会制度の中に組み込まれています。現代社会では、たとえば世界中の人から嫌われていたとしても生きていく権利がホシヨウ(オ)されています。人間関係にまつわる悩みのほとんどは、生死には関係なく、いわば気持ちの問題です。

このような悩みを解決するには、学ぶことより他はないかと思えます。生物としての進化のスピードは社会の進化に比べて圧倒的に遅いので、進化に任せていては社会変化についていきません。一方で、人間の考え方は学ぶことで変えることができます。本能が求めることの理由を学べば、理性によって本能に逆らうことができます。

たとえばバンジー^{*1}ジャンプがあります。あれは誰がどう見ても命を危険にさらす行為です。人間の本能は恐怖を感じて忌避するでしょう。

C 人間は（全員ではないでしょうが）、ひもがついていれば安全だと確信して、飛び降りることができます。もつと極端な例では、殉教者など、自分の命ですら信念のために投げ出すことができる場合もあります。人間以外の生物では、決して真似^{まね}できないことでしょう。

⁽⁵⁾ 人間は学習によって本能を超えた行動ができる今のところ唯一の生物です。論理的に考えて役に立たない、意味のない悩みは捨ててしまうことが可能です。悩みというのは現実が本能にそぐわない状況で生じるものです。悩みの解決にはまずその悩みをもたらした生物的な由来を理解することです。そして本当に悩む価値のあることなのかどうかを吟味することです。その結果、現代社会を生きる上で悩む必要のない問題だと理性が判断するのであれば、そんな悩みは無視して、もっと自分が大事だと思うことに時間を使う方がいいですし、人間にはそれが可能です。

（市橋伯一『増えるものたちの進化生物学』より。出題にあたって本文を一部改変した。）

*注1 バンジージャンプ ゴム製の命綱を足に固定し、橋などのジャンプ台の上から地面や水面近くまで飛び降りる遊び。

問一 傍線部(ア)・(イ)・(ウ)・(エ)・(オ)のカタカナは漢字でどう書くか。解答例にならない、それぞれ①～⑩の中から正しい組み合わせとなる漢字を二つ選び、同一解答欄にその番号を両方ともマークしなさい。

(ア) 1

(イ) 2

(ウ) 3

(エ) 4

(オ) 5

(解答例) コウケン

- ① 高 ② 貢 ③ 工 ④ 功 ⑤ 幸 ⑥ 猷 ⑦ 権 ⑧ 堅 ⑨ 謙 ⑩ 件

答 ② ⑥

(ア) ヘイガイ

- ① 幣 ② 併 ③ 兵 ④ 丙 ⑤ 弊 ⑥ 該 ⑦ 外 ⑧ 涯 ⑨ 害 ⑩ 概

(イ) キハン

- ① 既 ② 帰 ③ 規 ④ 起 ⑤ 紀 ⑥ 範 ⑦ 犯 ⑧ 判 ⑨ 煩 ⑩ 藩

(ウ) センレン

- ① 洗 ② 潜 ③ 浅 ④ 宣 ⑤ 鮮 ⑥ 連 ⑦ 練 ⑧ 廉 ⑨ 鍊 ⑩ 恋

(エ) エンカツ

- ① 縁 ② 円 ③ 園 ④ 延 ⑤ 援 ⑥ 克 ⑦ 活 ⑧ 渴 ⑨ 滑 ⑩ 割

(オ) ホシヨウ

- ① 帆 ② 補 ③ 歩 ④ 捕 ⑤ 保 ⑥ 省 ⑦ 償 ⑧ 障 ⑨ 賞 ⑩ 章

問二 空欄 A ・ B ・ C に入る語句の組み合わせとして最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

6

- | | | | | | | |
|---|---|-------|---|-----|---|------|
| ① | A | しかし | B | つまり | C | ところが |
| ② | A | したがって | B | しかし | C | つまり |
| ③ | A | したがって | B | つまり | C | ところが |
| ④ | A | したがって | B | しかし | C | ところが |
| ⑤ | A | しかし | B | つまり | C | たとえば |

問三 傍線部(1)「多くの人間が協力したからこそなした成果」とあるが、その内容として適切でないものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

7

- ① 居住域の拡大
- ② 個人の成長
- ③ 快適な生活の維持
- ④ 人口の増加

問六 傍線部④「狩猟採集社会のころ」とあるが、その内容として適切でないものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

9

- ① 集団で生き残っていくために、全員の公平性を重視するところ
- ② 少しでも多くの食料を確保するために、獲物を多くしとめた人を敬うところ
- ③ 集団のメンバーから嫌われないために、仲間に対して協力的なところ
- ④ 自分が困ったときに助けをもらうために、偉ぶらないところ

問七 傍線部⑤「人間は学習によって本能を超えた行動ができる」とあるが、それはどういうことか。最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

10

- ① 人間は、本能的には危険を避ける行動を取るが、訓練を通じて恐怖のコントロールの仕方を学習できるということ
- ② 人間は、宗教的な理由により本能が発揮できるようになり、自分にとってより適切な行動を選択することができるということ
- ③ 人間は、本能的に求めていることの理由を理解することで、理性によって、本能に逆らった行動をとることができるということ
- ④ 人間は、社会制度に従うことで、本能的な衝動を抑えた行動を取ることができるということ

Ⅱ 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

改札口に続く階段を昇りつめた途端、裕子は足を止めて目を見はった。正面にぶらさがっている駅の時計が、十二時二十五分を示している。授業が始まるのは一時半からだ。寝呆け眼で時計を見間違えたか、寝起きのハッキリしない意識のまま勘違いをしたのだろう、一時間も早く家を出て来てしまったらしい。

(1) それにしても、なぜ電車の中で気付かなかったのかと、裕子は半ば自分自身に呆れ返った。

目の前に投げ出された一時間の空白をどう処理しようかと考えながら、とりあえず改札を出て歩きはじめた。

昨晩遅くから降り出した雨は、今朝早くに止んだようである。アスファルトはすっかり乾いて、ところどころの窪みにみすぼらしく残された水溜りが、空き缶のプルトップやボロボロにはぐれた煙草の吸殻を浮かべている。裕子は水溜りをよけて、大きな交差点を右に曲がった。大通りに沿って少し歩き、また右に折れた道の先に大きなホテルがあつて、そのホテルの一階にショッピングモールがある。

ショッピングモールの両脇に並んだ色とりどりのウィンドウを覗いたあと、裕子はアメリカの化粧品メーカーの看板を掲げた店に、何気なく足を踏み入れた。戸棚のかげから厚化粧の店員が、いらっしやいませと言うでもなく、裕子の顔をちらりと見やった。化粧品の甘く強い香りが鼻をついた。

裕子はマニキュアの並んだ棚に近づいて、その一本一本を手に取り、試しているようにゆっくりと眺めた。透明のガラス壺のむこうで、ねっとりした赤い液体がとろりと揺れる。裕子は首を幾分か傾け、眉間に少しシワを寄せて何本ものマニキュアを手にした。

——あ、この色……。

そのうちの一本を手にしたとき、裕子はあることに気付いた。

——この色、こないだフラ語の絵美がつけてた……。

そう気付いたとたん、裕子は殆ど無意識のうちに、ベージュがかったピンク色の液体の入ったその壺を握りしめた。その他にも、何となく気に入った色のものを二本手に取り、キャsshヤーの前へぶちまけるようにそれらを置いた。さっきの厚化粧の女はほんのわずかに口もとを歪めて笑い、無言のままレジを叩いた。顔の大きさには不釣り合いなほど大きな目をうるませるようにして、すくいあげるように裕子を見た。

「六千円です」

裕子も無言で札を置くと、小さな紙袋に詰められた三本のマニキュアをゆつくりと受け取り外へ出た。

フランス語学科の絵美という女は、つい先日、ファッション雑誌の読者モデルとかいうのに採用されたと言って大騒ぎしていた。

A 背が高くて手脚の長い絵美だが、顔はただ造作が大きいのにめったやたらと塗りまくっているだけだ。

——こないだなんか、マスカラのつけすぎで睫毛がゴキブリの足みたくなっていたわ。

裕子は心の中で独言ちた。けれどそのとたん、自分がひどくヒシヨウなものに思えて嫌気がさした。

裕子は学校が好きではない。⁽²⁾ 学校の中にいるときは、精一杯楽しげに振る舞っているけれど、裕子の気持ちはそうでもしていなければ均衡が保てないのである。

最近、都内の大学の多くが、幾つかの学部を引き連れて東京キンコウ——高尾とか、厚木とかに移転する例が増えてきているけれど、裕子の通っている大学は殆どの学部を都心に抱えたまま腰を据えている。ところが学生の数が増える一方なので、キャンパスはひどく狭く感じられる。お昼どきなど、キャンパス内の食堂やカフェテリアはおろか、近くにある喫茶店の類までもが満杯の状態になり、席を見つけるのすら難しいほどだ。

そんなに狭い学校の中で、似たような格好をした友人たちと群をなし、裕子は鮮やかな色のスカートを揺らして歩いている。ちっとも興味の持てない講義に、ただ単位のためだけに出席している。

毎日毎日が、霽もやの中にいるように感じられる。噂うわさと嬌声きょうせいに疲れた脳味噌のうみそは、もうなにも吸収しない。

B 裕子は、毎日の猥雑わいざつな話し声の中に身を委ねずにはいられない。身も心も、たび重なる疲弊おそに怖れおのいているのに、けれど裕子は「取り残されてはいけない」などと考えている。自分自身でも、どこで区切りをつければいいのか判わからない。そうして苛立いらだちは疲労をゾウフク(ウ)させるばかりだ。

ホテルを出て、公園の脇わきのゆるい坂道をぼんやりと登っていた裕子は、ふと我に返って立ち止まった。

昨夜ゆうべ、苛立いらだちが頂点に達した。直接的に、これという原因があったわけではない。ただ単に、自分のこと——自分の容姿や、その他さまざまな意味を含んだ自分の能力のことを考えていただけで、ここ数か月お馴染なじみになったあの嫌なイライラがやって来て、そしてそいつは裕子の内臓を

ぐちゃぐちゃに切り裂いて去って行つた。内臓の痛みに耐えられなくなった裕子は、C 駄目になった内臓を吐き出すかのように、低く呻きながら涙を流した。

今朝時間を間違えたのは、昨夜の興奮が身体の内に残っていたからかも知れない。――裕子は妙にうら寂しい気持ちで、足をひきずるように坂を登った。片手に持った小さな袋の中から、ガラス壺の触れあうカチリという音がした。裕子はたった今気付いたように、自分の持っている袋を見た。

とたんに、D 微かな苛立ちをおぼえた。

――なんでこんなもの買ったんだろう。

後悔とも自蔑ともいえる感情が、胸の底から湧き出て来た。最低の気持ちでいるときでさえ、マニキュアを買った自分が嫌だった。

裕子は坂を登る足を速めた。カツリカツリと踵の音を立てて歩くと、少しはそんな思いがムサンするようない気がした。

授業の始まった二、三分後、裕子はすべりこむように教室に入った。比較言語学の教授は、おそろしく長い名前を持った、東欧かどこかの人だった。

日本人よりうまいのではないかと思わせる、彼の流暢な日本語での講義を聴いている者は、恐らく十人もいないだろう。裕子は窓際に坐つて、ぼんやりと外を眺めていた。建物のすぐ横に植えられた樹木の葉が、風に吹かれて窓ガラスを撫でてゐる。新緑は明るい色に透きとおる、葉が揺れるたびに床に薄緑の模様がでる。

揺れながら光るその模様を見るときに眺めていた裕子の耳に、誰かが溜息をつくのが聞こえた。ふと振り返ると、灰色の瞳をした東欧人の教授が、ほんの少し寂しそうな顔で微笑みながら黒板の前に立っていた。

「皆さんの中で、サリンジャーの『フラニーとゾーイー』^{*1}を読んだことのある方はいますか」

裕子は何かの電波に触れたような気がした。けれど教授は、しばらくの間沈黙したあと、遠くを見ているような目で別なことを話しはじめた。灰色の目には底がなかった。

「……私は、日本に来て五年になるのですが、大学を卒業してから随分いろいろな国へ行きました。――日本に来る前は、アメリカやドイツの大

学でも教えてました」

東欧人の教授はそこで一息ついて、今度は窓の外を見やった。

「私が日本に来て、まず思ったのは——そう、日本の大学はとても変わってるってことですね……。そして、そこにいる学生たちもね。——何と云えばいいでしょうか。……ああ、そうだ。ドイツの大学にいたときにね、こんなことがあったんですよ」

彼は、あくまでも静かな口調で話を続けた。裕子は無意識のうちに奥歯をしつかりと噛みあわせていた。

「学期末の、いちばん大切な試験のときにね、ある男子学生が休んでしまったんです。とても真面目な学生でしたから、翌週会ったときに、どうしたのかと訊ねたんですよ。そうしたら彼は、申し訳なさそうな顔をして、『妻がお産だったものですから……』って答えたんです」
教授は微笑んで続けた。

「日本の大学では考えられないことですよ。でも、そういったことが考えられないのは日本だけです。アメリカでもドイツでも、大学にはいろいろな年齢の、いろいろな環境の人がいるんです。……だからね、私の目から見ると、日本というとても小さな国の——ごめんなさい、小さいな——どと言つて——とても小さな枠の中で、その中の価値観だけを信じて暮らしている皆さんは、ひどく奇異に感じられることがあるんです……」

終業を報せるチャイムが鳴った。教授は少し驚いて振り返り、机の上の自分のノートや本をまとめながら言った。

「今日は随分とお喋りをしてしまいましたね。来週は少しピッチを上げましょう。——ああ、それからね、『フラニーとゾーイー』を読んでごらんなさい。私の言いたかったことが少しお判りいただけるかも知れない」

東欧人の教授は「さようなら」と言つて教室を出て行つた。他の学生たちもぞろぞろと立ち上がつて出口の方へ向かった。

裕子は窓際の席に腰をおろしたまま、⁽⁴⁾掌で頬を支えて窓の外を見ていた。さつき窓ガラスを撫でていた樹木の葉が、風が止んだのか動きをとめて、時おり微かに震えていた。裕子はその新緑の素晴らしい色を、ちょっと羨ましいと思つた。

（鷺沢萌『東京のフラニー』より。出題にあたって本文を一部改変した。）

*注1 『フラニーとゾーイー』 J・D・サリンジャーの代表作の一つで、ガラス一家の末妹（大学生）を主人公とした『フラニー』

と、兄（俳優）を主人公とした『ゾーイー』の連作をまとめた小説。

問一 傍線部(ア)・(イ)・(ウ)・(エ)のカタカナは漢字でどう書くか。解答例にならない、それぞれ①～⑩の中から正しい組み合わせになるように漢字を二つ選び、同一解答欄にその番号を両方ともマークしなさい。

(ア) 11

(イ) 12

(ウ) 13

(エ) 14

(解答例) トクテイ

- ① 得
- ② 徳
- ③ 特
- ④ 読
- ⑤ 督
- ⑥ 帝
- ⑦ 定
- ⑧ 低
- ⑨ 訂
- ⑩ 呈

答え ③ ⑦

(ア) ヒシヨウ

- ① 被
- ② 悲
- ③ 卑
- ④ 比
- ⑤ 飛
- ⑥ 傷
- ⑦ 小
- ⑧ 性
- ⑨ 少
- ⑩ 省

(イ) キンコウ

- ① 近
- ② 均
- ③ 勤
- ④ 緊
- ⑤ 金
- ⑥ 交
- ⑦ 行
- ⑧ 構
- ⑨ 鉉
- ⑩ 郊

(ウ) ゾウフク

- ① 雑
- ② 像
- ③ 蔵
- ④ 増
- ⑤ 造
- ⑥ 幅
- ⑦ 服
- ⑧ 複
- ⑨ 復
- ⑩ 副

(エ) ムサン

- ① 無
- ② 霧
- ③ 武
- ④ 夢
- ⑤ 務
- ⑥ 残
- ⑦ 参
- ⑧ 賛
- ⑨ 散
- ⑩ 惨

問二 傍線部(a)・(b)の本文中の意味として最も適切なものを、それぞれ①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

(a) 15

(b) 16

(a) うら寂しい気持ちで

- ① 寂しいとは気づかずに
- ② 寂しい気持ちと裏腹に
- ③ やたら寂しい思いで
- ④ どことなく寂しい気持ちで
- ⑤ 寂しさに打ちひしがれて

(b) 見るともなしに

- ① はっきり意識せずに見て
- ② あえて目をそらして
- ③ 一緒に見る友人もおらずに
- ④ じつと凝視して
- ⑤ 仕方なく目を向けると

問三 空欄 A・B・C・D に入る語句の組み合わせとして最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマ

クしなさい。

17

- | | | | | |
|---|--------|--------|-------|--------|
| ① | A たしかに | B それゆえ | C まるで | D はじめて |
| ② | A しかし | B それゆえ | C まさに | D なぜだか |
| ③ | A しかし | B それでも | C まさに | D またもや |
| ④ | A たしかに | B それでも | C まるで | D またもや |
| ⑤ | A やはり | B それゆえ | C まるで | D なぜだか |

問四 傍線部(1)「それにしても、なぜ電車の中で気付かなかったのか」とあるが、家を出る時間を間違えた理由について、裕子自身はどのように

考えているか。最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

18

- ① 大学の友人関係に心身ともに疲弊しきってしまい、時計を確認する心の余裕もなくなっていたことが原因かも知れないと考えている。
- ② 昨夜感じていた自分に対するイライラや興奮が、まだ身体に残っていたことが原因かも知れないと考えている。
- ③ 周囲の友人よりも自分が優れていなければならないという焦燥感にかられていたことが原因かも知れないと考えている。
- ④ 大学の外で過ごすことで、無意識のうちに自分らしさを取り戻そうと思っていたことが原因かも知れないと考えている。

問五 傍線部(2)「学校が好きではない」とあるが、裕子がのように思うのはなぜか。最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

19

- ① 学校は、都心にあるため、ひどく窮屈で大学周辺にも自分の席を見つけれられないような場だから
- ② 学校は、自分の気持ちとは裏腹に、精一杯周囲に合わせて振る舞わなければならない場だから
- ③ 学校は、興味の持てない講義であつても単位を取得するためだけに来なければならない場だから
- ④ 学校は、友人と似たような高価なファッションアイテムを購入し続けないと馴染めないような場だから

問六 傍線部(3)「日本の大学はとても変わつてゐることですね……。そして、そこにいる学生たちもね」とあるが、教授がこのように言つたのはなぜか。最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

20

- ① 大切な期末試験を誰かのために休むといったような、自己犠牲の精神の無い日本の大学生の未熟さを指摘したかったから
- ② 単位を取るためだけに、ただ授業に出席するような、自主性の無い日本の大学生に皮肉を言いたかったから
- ③ 同世代の、そして同じような環境や価値観を絶対的なものとみなして生きているような、日本の大学生に違和感を抱いたから
- ④ 『フラニーとゾーイー』に対する反応の鈍さに、日本の大学生に働く同調圧力の恐ろしさを感じたから

問七 傍線部(4)「裕子はその新緑の素晴らしい色を、ちょっと羨ましいと思った」とあるが、この時の裕子の心情はどのようなものか。最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

21

- ① 教授の言葉を受け、これまでの大学生活では氣にとめることのなかった新緑の美しさを、今は素直に認めている。
- ② 新緑の素晴らしい色をみて、大学生になり忘れてしまった自分のみずみずしい感性を思い出し、センチメンタルな気分である。
- ③ 情報にあふれた都会の大学で、窓の外の新緑の色をも羨むような自分の繊細さに改めて気づかされている。
- ④ 新緑の葉が素晴らしい色を自然と調和させるように、自分も大学の友人と真に良い関係を築きたいと思っている。

問八 この文章の特徴に関する説明として適切なものを、次の①～⑥の中から二つ選び、同一解答欄にその番号を両方ともマークしなさい。

22

- ① 過剰な自意識に苦しみながらも、主人公が飄々^{ひょうひょう}と生きる都会の女性となっていくことを予感させる物語となっている。
- ② 日本の都心にある大学という極めて狭い独特な環境を舞台に、若者の過剰な自意識と自己嫌悪を描いている。
- ③ 学業でなくファッションに専念する女子大学生の姿を描きながら、日本におけるジェンダー格差の問題を提起している。
- ④ 表面的には明るい大学生活を送りつつも、人知れず涙を流す若者の姿から、青年期のメンタルヘルスの問題を指摘している。
- ⑤ 大学生活を送るなかで、周囲との関わりから生じる青年期特有の苦悩や葛藤がみずみずしく描かれている。
- ⑥ 興味を持ってない授業に淡々と出席し続ける学生の姿を描くことで、日本の高等教育の現状を浮き彫りにしている。

Ⅲ 以下のそれぞれの設問に答えなさい。

問一 熟語の成り立ちには様々なものがあるが、次の(1)・(2)の成り立ちにあてはまる熟語を、①～⑩の中からそれぞれ二つ選び、解答欄にその番号を両方ともマークしなさい。

(1)

23

(2)

24

(1) 似た意味を持つ漢字を重ねた熟語（例えば河川）

(2) 主語と述語の関係にある熟語（例えば腹痛【腹が痛い】）

- ① 往復 ② 避難 ③ 温暖 ④ 攻守 ⑤ 円高 ⑥ 軽傷 ⑦ 永久 ⑧ 閉会 ⑨ 後退 ⑩ 市営

問二 次の(1)～(4)の四字熟語の空欄は漢字でどう書くか。それぞれ①～⑧の中から正しい組み合わせになるように漢字を二つずつ選び、同一解答欄にその番号を両方ともマークしなさい。

(1)

(2)

(3)

(4)

(1) 朝令

① 暮

② 夜

③ 改

④ 長

⑤ 解

⑥ 良

⑦ 昼

⑧ 未

(2) 大器

① 晩

② 朝

③ 中

④ 小

⑤ 昼

⑥ 成

⑦ 万

⑧ 生

(3) 榮枯

① 華

② 諸

③ 者

④ 盛

⑤ 必

⑥ 常

⑦ 衰

⑧ 樹

(4) 厚顔

① 汗

② 赤

③ 無

④ 多

⑤ 足

⑥ 知

⑦ 恥

⑧ 霧

問三 次の(1)・(2)のことわざと最も類似した意味のことわざを、それぞれ①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

(1)
29

(2)
30

(1) 河童^{かっぱ}の川流れ

① 捕らぬ狸^{たぬき}の皮算用

② 弘法も筆の誤り

③ 馬の耳に念仏

④ 井の中の蛙^{かわず}大海を知らず

⑤ 猫に小判

(2) 虻^{あぶ}蜂^は取らず

① 二兎^とを追うものは一兎をも得ず

② 泣き面に蜂^{かえる}

③ 蛙の子は蛙^{かえる}

④ 鳶^{とんび}が鷹^{たか}を生む

⑤ 立つ鳥跡を濁さず

問四 次の(1)・(2)の傍線部と同じ用法で使われているものを、それぞれ①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

(1)
31

(2)
32

(1) この部屋からは美しい紅葉の景色が見られる。

① 私は先生から怒られた。

② 観客から声援をかけられる。

③ この単語帳は、簡単に覚えられる。

④ 秋の気配が感じられる。

⑤ 先生が自宅を訪ねて来られた。

(2) 電車で学校まで通う。

① 公園で犬と遊ぶ。

② 二時間で目的地に到着する。

③ 電車の遅延で学校に遅れた。

④ 薬で病気を治す。

⑤ レストランで友達と食事をする。